

2008年10月7日

川田伸紘様

東京女子大学
理事長 原田明夫
学長 湊 晶



東京女子大学東寮・体育館建築物についての要望書（2）への回答

拝啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

さて、9月23日付のお手紙を頂戴いたしました。内容は6月13日付の貴信からの標記要望書に対して回答、説明がないということでした。

川田様からは昨年の6月にも同様の要望書を頂戴し、それに対する回答は既に差し上げております。現在でもその時回答しました大学の方針には変わりがありませが、お手紙にありましたご要望とご質問に関しまして、下記の通り回答申し上げますので、ご理解を賜わり度いと存じます。

記

- 1、旧東寮の写真、図面、記念プレート、関係記録等の整理と個室の保存等に関しましては、既に旧東寮の記録DVDを作成し終わり、現在、旧東寮・体育館の記録写真集の編集作業を行っております。
また大学としては、新渡戸記念室を設置することを理事会で決議し、その中に旧東寮の個室復元と関係資料の展示を行い、末永く記憶にとどめることを計画しております。
記念室につきましては、準備が整い次第一般公開することを考えております。
- 2、旧体育館の解体計画の延期若しくは一時凍結、キャンパスの全体計画の適正な見直しに関しましては、前回お答えしました通り、慎重に種々検討の結果、次の理由で保存を断念し、解体をすることを大学として決断しております。
 - (1) 時代の要請に応える教育環境の整備
現在の学生及び将来の学生にとって、より安全で利便性、快適性の高い施設を整備することの必要性。大学にとっては、学生のためが最も重要な視点であります。
 - (2) 敷地の制約
施設老朽化が進む中、キャンパスの将来を見据え新たな施設を建設する必要性は必至であり、そのための敷地が現在のキャンパスには残されていないこと。
 - (3) 財政上の制約
現在の旧体育館を維持し使用し続けるためには、改修工事・耐震補強が必要であり、そのための費用は現在の法人の財政上負担が大きすぎることを。

最後に繰り返しになりますが、本学構内に存在しますレーモンド設計の7つの文化財建築物（本館、講堂・礼拝堂、外国人教師館、ライシャワー館、安井記念館、東・西両校舎の7棟）につきましては、必要な改修を行い、かなりの費用を要しても、周囲のたたずまいと共に、これらの建築物を後世に遺すべく努力をする所存です。

ご要望に沿えず誠に残念ではありますが、本学の決断に至った事情をご賢察の上、ご理解下さるようお願い申し上げます。

敬具